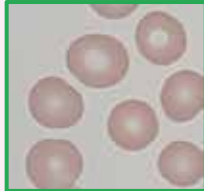


血液の中にはどんな細胞があるの？

血液の成分には、タンパク質やミネラルといった形に見えないものと、顕微鏡で観察することのできる細胞成分があります。では、血液の中にある細胞成分にはどんなものがあるのでしょうか。これらは、標本を作って、染色することにより、顕微鏡を使って目で見ることができます。

赤血球



赤血球は中央が凹んだ円盤状の形をしています。これは、血管の中で自由に變形して動くためです。直径は7-8 μm です。主な働きは酸素の運搬です。

白血球

白血球は、大きく骨髄球系細胞とリンパ球系細胞に分けられます。骨髄球系細胞には、顆粒球（好中球、好酸球、好塩基球）と単球があります。これらは顕微鏡で分類して観察することができます。一方、リンパ球系の細胞は、T細胞、B細胞、NK細胞に分けられますが、これらの細胞の形を顕微鏡で判別することはできません。

好中球



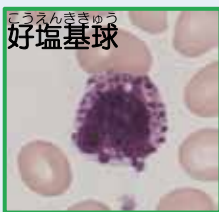
細菌などの体内の異物を貪食し、除去することにより、体を守る働きをします。

好酸球



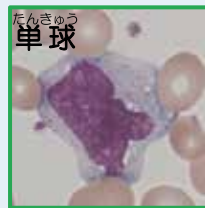
アレルギーの時増加します。オレンジ色の顆粒が特徴です。

好塩基球



アレルギーに関与しています。赤紫色の大きめの顆粒があります。

単球



好中球よりも強い貪食能をもっています。血液の中では単球として存在し、組織ではマクロファージとして存在します。

リンパ球



T細胞、B細胞、NK細胞に分けられます。分類するためには細胞の表面にあるマーカーを調べます。

血小板



血液の細胞の中で一番小さく、直径は2-4 μm です。血液が凝固するときの最初の働きをします。